

ALPS 処理水希釈放出設備 現地確認結果 報告書(概要)

| | | | |
|-------|----------------------------------------------|-------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 確認年月日 | 令和 4 年 12 月 26 日(月) | 確認目的 | 工事の進捗、施工品質の管理 |
| 確認箇所 | K 4 タンクエリア | | |
| 確認設備 | <input checked="" type="checkbox"/> 測定・確認用設備 | <input type="checkbox"/> 移送設備 | <input type="checkbox"/> 希釈設備 <input type="checkbox"/> その他 |

測定・確認用設備の一部である循環配管の耐圧試験が行われていることから状況を確認した。なお、本試験は、下水道用ポリエチレン管・継手協会が発行している「下水道用ポリエチレン管 PA-11-2014 技術資料」を参考に実施していた。

- 敷設した配管にはろ過水が封入され、加圧ポンプにより配管内部の圧力を上昇させた後、一定時間経過後に、ろ過水の漏えいがないことを確認していた。(写真 1)
- 耐圧試験の結果、昇圧完了時の圧力は「1.09 MPa」、60 分間保持後は、「1.05MPa」と圧力にほとんど変化が見られず、規定の圧力に対し耐久性を有することが確認された。(写真 2)



(写真 1-1) 耐圧試験の状況

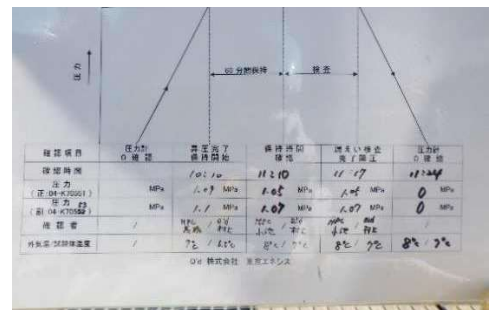


(写真 1-2) 耐圧試験の状況

確認
結果



(写真 1-3)
配管内の水張りに使用するポンプ等



(写真 2) 耐圧試験の結果

【東京電力からの聴取内容】

- 実施計画に、「製品の最高使用圧力以上で一定時間保持後、同圧力に耐えていること、また、耐圧部からの漏えいがないことを確認する。」と記載しているが、一定時間は 60 分としている。
- 合格基準は、水圧を 1.0 MPa の負荷をかけたとき、60 分の時間保持後に 0.8MPa 以上を合格としているが、東京電力によると 1 時間の時間保持後に 1.0MPa 以上を合格としている。